



今回は、関高校・霊長類研究の活動報告です。

◇ SGH 活動としての霊長類研究

県 SGH 指定 2 年目を迎えた 2015 年、中部学院大学、日本モンキーセンター、京都大学霊長類研究所等、関係諸機関の支援を受け、SGH 活動の一環としての霊長類研究が始まりました。

高校教育と霊長類学の組み合わせは一見奇異に映るかも知れませんが、高校生にとっては、トップレベルの研究者から直接講義を受け、フィールドワークの手法を学ぶ絶好の機会であり、陸域生態系や生物多様性の保全等の SDG s (持続可能な開発目標) 実現に取り組む第一歩になり得ます。

過去 3 年間、関高校では、竹ノ下祐二教授 (中部学院大学) をはじめとする専門家の指導を受けながら、講演会、行動観察、実験講座、野外実習などのプログラムを希望者対象に実施してきました。さらには、霊長類学会や動物学会等の学会発表に参加し、市民対象イベントやシンポジウムなどのアウトリーチ活動も企画しています。

このプログラムの参加者の中には、生物学の研究を志し大学進学を果たした生徒、心理学や機械工学の分野に進学し霊長類研究の成果を生かそうとしている生徒もいます。

もちろん、霊長類学とはまったく異なる分野をめざす生徒もいますが、フィールドワークやチームワーク、学会発表などで身につけた基礎的・汎用的能力は、大学や社会の様々な場面で役立つと思われまます。様々な可能性を秘めた霊長類学の研究成果や実践活動を、高校における探究活動やキャリア教育の中に積極的に取り組んでいくことは、関高等学校の SGH 活動の特色のひとつといえます。

◇ 関高校・霊長類研究 ～3年間の歩みと今後の活動計画～

2015 年

- 7 月： 竹ノ下祐二氏講演会 (本校・さくら塾)
松沢哲郎氏講演会 (中部学院大学)
- 8 月： 有志 5 名による東山動物園のゴリラ群 5 頭の行動観察開始 (第 1 期)。
京大霊長類研究所、日本モンキーセンターで野外実習。
- 9 月： 岐阜大学応用生物科学部・遺伝学実験講座。

2016 年

- 7 月： 竹ノ下祐二氏講演会 (本校・さくら塾)
松沢哲郎先生講演会 (中部学院大学)
第 32 回日本霊長類学会で研究成果を発表。
「シャバーニの配慮と集団構造の変化」
第 2 期研究グループ発足 (5 名)。
- 8 月： 京大霊長類研究所、日本モンキーセンターで野外実習。
- 9 月： 岐阜大学応用生物科学部・遺伝学実験講座。
- 11 月： 関市図書館でゴリラの保全活動に関わる啓発イベントを開催。
「ゴリラがつなぐ人と森 ～熱帯雨林の人と森の共生のために～」

2017 年

- 3 月： 中部学院大・子ども家庭支援センター (ラ・ルーラ) で実習。
- 4 月： 有志グループを自然科学部に移管。霊長類学を軸に心理学や人類学等の関連

- 諸科学を包摂した総合人類学を志向する研究会・アントロポス発足。
- 7月： 第33回日本霊長類学会で研究成果を発表。
「東山動物園のゴリラ群における個体間関係とゴリラの成長」
第3期研究グループ発足（13名）。
松田一希氏講演会（本校・さくら塾）
- 8月： 京大霊長類研究所、日本モンキーセンターで野外実習。
- 9月： 岐阜大学応用生物科学部・遺伝学実験講座。
- 11月： 自然科学系部活動発表・交流会で特別賞受賞。
- 12月： 日本動物学会中部支部大会で発表。

2018年（予定を含む）

- 2月： 高校生サイエンスフェスティバルに参加。
- 7月： ダイバーシティ SEKI シンポジウム開催（テーマ：LGBT）
竹ノ下祐二氏（霊長類学）、水野友有氏（発達心理学）講演
第33回日本霊長類学会で研究成果を発表。
「コドモをとりまくゴリラの社会構造」
第4期研究グループ発足（10名）。
- 8月： 日本モンキーセンター一日野外実習
岐阜大学応用生物科学部・遺伝学実験講座。
- 11月： 自然科学系部活動発表・交流会
- 12月： 日本動物学会中部支部大会
アントロポス SEKI シンポジウム開催（本校）
テーマ： 「大人になるとはどういうことか」

2019年（予定）

- 2月： 高校生サイエンスフェスティバルに参加予定。



2015年8月、有志5名によるニシローランドゴリラの行動観察が始まってから、3年が過ぎようとしています。

何がしたいのか、自分たちで決める。自分たちで考え行動する。自分たちの考えたことを相手にわかるように語りかける。

関高霊長類研究の方針は、3年間の実践活動を通じてようやく定着しつつあります。今後は、ゴリラの行動観察を継続的に行うと同時に、ヒトやチンパンジー等の近縁種との比較研究、熱帯雨林と大型類人猿の保全活動に関わる研究・啓発活動も行う予定です。